

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

同意事項およびプロジェクトの進展状況

議題 1.0 緒言

ジョン・ハートウェル (John Hartwell) 氏が会議参加者を歓迎し、当会議および昨日・今日のワークショップの主催者である中国 Pan Wenju 氏に感謝の意を述べた。また、会議の参加者が自己紹介を行った (参加者名簿は別紙 A を参照)。

ハートウェル氏は、アルミTFの第1回会議が2006年4月19～20日にバークレーで開かれ、アクションプランが策定されたことを述べた。その後、2006年5月18日に北京でタスクフォースの非公式会議が開かれた。アクションプランは、2006年10月11日に政策実施委員会 (Policy and Implementation Committee) の承認を受けた。

議題 1.1 ワークショップの成果確認

1.1A PFC 排出抑制 (ATF-06-2)

ランド (Rand) 氏が、2日間のワークショップは、産業界からも多くの支持と参加者があり大成功だったと概要を述べた。電解製錬炉で陽極効果を避けるための技術と情報について非常に詳しい説明があった。ワークショップによって活発な討議がもたらされ、参加者からの意見も多くよせられた。ランド氏はプロジェクトの進展状況を以下のようにまとめた。

- ・実証プロジェクトの特定：2社が自主的に立候補。
- ・モニタリングと棚卸し：データベースを構築。
- ・技術面での選択肢の分析。
- ・認識の向上：ツール、研修、翻訳された文書の開発と配布。
- ・棚卸しとデータ収集の向上 (能力の向上)。
- ・中国における全国目録の作成 (IPCC の方法を使用)。
- ・陽極効果を特定、予測するためのアルゴリズムへの関心の向上。

ランド氏は、オーストラリア政府、オーストラリアの企業、および米国環境保護局から当プロジェクトに向け資金援助があったことを報告した。また、バークレーの会議で承諾されたとおり、米国と中国が当プロジェクトにおいて連携していることが確認された。中国側の主な連絡担当者が当会議で任命された。プロジェクトは、2007年末の目標に向け予定通り進んでいるが、データ収集と報告の面が現在遅れをとっている。

1.1B ボーキサイト残渣 (赤泥) 管理 (ATF-06-3)

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

Raj Rajakumar 博士がワークショップの参加者全員に感謝の意を表し、大変よい討議ができたこと述べた。同氏はまた、オーストラリア、中国およびインドがこのプロジェクトのパートナーであるが、ワークショップへのインドからの参加がなかったと告げた。ワークショップでは、湿式処理、傾斜沈積、乾式積層など、残留物の異なった保存方法が詳しく紹介された。Alcoa 社は、同社の炭素回収プロジェクトについて説明した。これは、この分野では新しい取組みである。Rajakumar 博士は、ワークショップは多くの専門家が集まり最善の残留物管理方法を討議した初めての機会であり、そこで行われたプレゼンテーションで、この分野の考え方が大きく進歩したと述べた。ワークショップにより、アクションプランで定められた目標はさらに前進し、また焦点が絞られた。また、プロジェクトの対象範囲が詳細に討議された。

ワークショップでは、環境負担が少なくかつ経済的な保存方法が必要であることが認識された。参加者は、実施中の多様な AP6 イニシアティブから得られる情報を共有するための機構が必要であるという同意に達した。これを受け、オーストラリアと中国が当プロジェクトを検証するための作業部会をつくること、またインドにこの小作業部会に参加するよう促し、プロジェクトをさらに詳しく検討し、次の段階へのスケジュールを作成することで同意した。Rajakumar 博士は、プロジェクトは 2007 年に向け計画どおりに進んでいると述べた。オーストラリア政府がプロジェクトに資金援助を行う予定であることがタスクフォースに報告された。

タスクフォースは設立に同意し、インドの参加が非常に重要であるとの認識から、インドの参加を促すための方法を討議した。

1.1C 高シリカ・ボーキサイト処理 (ATF-06-4)

Raj Rajakumar 博士は、このワークショップはボーキサイト残渣管理のワークショップよりも多少専門的ではあるが、参加と研究協力に関しては、同じメッセージを繰り返したいと述べた。同氏は、これは非常に重要な分野であり、多くの関心を集め、プロジェクト下での優先順位に関し活発な議論が交わされていることに言及した。ワークショップでは、採掘技術、鉱床タイプの違い、報告方法と今後の技術の見通しなどについて、専門家によるプレゼンテーションが行われた。特にオーストラリアと中国の参加者はプロジェクトの次のステップに向けた共通の理解と目的を持っていることを示した。ワークショッププロジェクトの参加者は、作業部会の設立を提唱した。Rajakumar 博士は、ワークショップでの討議にもとづきプロジェクトの 2007 年の予定を多少変更する必要があると述べた。オーストラリア政府がプロジェクトに資金援助を行う予定であることがタスクフォースに報告された。

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

タスクフォースは、このプロジェクト下に作業部会を設立することに同意し、ここでもインドの参加を促す方法を討議した。

議題 1.2 その他のアルミニウムタスクフォースプロジェクトの確認

1.2A アルミニウムリサイクリング (ATF-06-6)

スティーブ・ラーキン (Steve Larkin) 氏が、アルミニウムのリサイクリングと言えただれもがわかることであるが、実際には、多くの異なった応用があり、把握は困難であると語った。標準化された指標、同意された共通報告様式などのベンチマークが示されている。参加メンバーは、リサイクリングにおいては日本が世界で突出した存在であり、他のメンバーは日本を手本にしようと努力しているところであるという認識で一致した。

当プロジェクトでは、参加各国におけるリサイクリングプログラムの現状に関する要望を近いうちに提出する（各政府が概要を作成、確認する）ことが提案された。プロジェクトは、この調査にもとづき共通報告を作成することを目指している。グループは、この作業の結果を出すには時間が非常に厳しいが、達成は可能であると認識している。この調査は、UBCのみを対象として作成されるものだが、輸送および建設セクターも対象に含めることが可能である。UBC から得た知識はその他のセクターにも利用でき、リサイクリングによる省エネルギー効果は甚大である。

1.2B フッ化物排出抑制 (ATF-06-05)

まずロン・ナップ (Ron Knapp) 氏が、タスクフォースに対し、このプロジェクトの開始を遅らせる決定がすでにされていることを伝えた。これは、両プロジェクトがともに捕集作業を中心とすることから、メンバーが PFC 抑制プロジェクトを先に開始したいと希望したためである。ナップ氏は、現在プロジェクトの作業を開始する準備が整い、オーストラリアの複数の製錬所から参加の意志を伝えられていると述べた。また、中国と米国に対してこのプロジェクトへの参加を促す書簡をタスクフォースの議長を通して送る計画であることを説明した。同氏はまた、PFC とフッ化物は抑制管理手法に差があり、フッ化物の影響は、近隣地域への影響である一方で、PFC の抑制管理は世界規模の問題であり、より複雑であることに言及した。このプロジェクトは社員の意識向上、維持管理作業、定期的な清浄に焦点をあてて進められる。

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

プロジェクトでは、今後作業チームを結成し、オーストラリアの電解製錬炉におけるフッ化物抑制管理の具体的な成功例を示したケーススタディを開始する。国際アルミ協会 (International Aluminium Institute: IAI) もこの分野でのデータ収集に取り組み、まだ未達成の部分特定する予定である。この後、タスクフォースメンバー国の企業に対し、IAI が示したレベルの達成と正確な測定の実行を促していく。

1.2C 技術提供者とのリンク (ATF-06-7)

ケイティ・ローレンス (Katie Lawrence) 氏は、Yvonne Noordhuis 氏に代わり「技術提供者とのリンク」(Linkages to Technology Providers) データベースプロジェクトの進展状況を説明した。当プロジェクトは、公式ウェブサイト上のデータベース案のホスティングに技術的な問題があったため予定通りには進んでいない。現在ではデータベースは独自のドメイン名を持ち、(最初の2年間は)オーストラリア政府が構築、メンテナンスを行う。最初のデータベースのプロトタイプは2007年4月の第1週には完成し、その後、データベースの機能とオペラビリティがテストされる。ドメイン名が特定された後、タスクフォースのメンバー国は、各機関のウェブサイト上にリンクを張るよう要請、要求されることになる。データベースは2007年5月中旬ごろに使用が開始されると予定されている。データベースの一般的なオペレーションの概要がメンバーに配布された。タスクフォースは、業界がこのデータベースに関心を示していることを告げた。

1.2D アルミニウム産業の指標・基準作り (ATF-06-1)

スティーブ・ラーキン氏が、プロジェクトの目的は全てのメンバーの意見をIAIの報告書に反映することであると説明した。追跡される指標にはPFC抑制管理、フッ素排出抑制管理、およびリサイクリングで使用される指標が含まれるため、目的達成には他のプロジェクトとの協力が必要である。過去2日間のワークショップとIAIによるフォローアップの中で、この分野で大きな進展があったことが示された。このプロジェクトの成功には、CNIAの作業も重要な鍵となる。

ラーキン氏は、IAIの報告様式が望ましい様式であることは共通見解であると述べた。当プロジェクトは進展があるものの、様式の統一にはまだ工夫が必要である。また、一貫した報告を達成するためには、研修を続ける必要がある。全般的な戦略は正しく、様式もすでにあり、後は様式に記載するだけである。4月に開かれる次の会議では、参加者がいく分かは様式のフォーマットに精通していることが期待される。

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

議題 1.3 他のタスクフォースとの連携の検討

ハートウェル氏は、2006年8月、タスクフォースの議長として、鉄鋼タスクフォース、セメントタスクフォースの議長に超セクタープロジェクトとして可能な分野についての書簡を送ったが、返事がきていないと述べた。またハートウェル氏は、近頃インドで開かれた鉄鋼タスクフォース会議（2007年3月14日～16日）では、鉄鋼タスクフォースはボーキサイト残渣ワークショップの反応をできるだけ早く知りたいと言っていたとも語った。セメントタスクフォース会議は2007年4月にインドで開かれる予定で、そこでもこの問題が議題となると考えられる。

ハートウェル氏は、オーストラリア政府が、石炭鉱業タスクフォースのもと、復旧・管理などのテーマで作成した中国語と英語のハンドブックの入ったCDを配布した。残渣管理に関するハンドブックも2007年2月に作成され、現在中国語へ翻訳中である。全てのハンドブックは、オーストラリア政府によるプログラムのウェブサイト「リーディングプラクティス：鉱業のための持続可能な開発」（Leading Practice Sustainable Development Program for the Mining Industry）www.industry.gov.au/sdminingで入手できる。

議題 1.4 その他の課題

P&IC 最新情報

ハートウェル氏は、米国国務省の代表者に対し、次の政策実施委員会（P&IC）および閣僚会議について最新情報を求めた。P&ICは2007年の6月に開かれ、閣僚会議は日程は決まっていないが2007年後半にインドで開かれる公算が高いことが告げられた。また、AP6の公式ウェブサイトには異なる言語でのライブラリー、メイリングリスト、今後の会議や関連協議会のカレンダー機能があり、このタスクフォースで作成される内容を全て掲載することが提唱された。メンバーは、関連する公の内容をサイトに掲載するよう検討することに同意した。この取組みは、現在開発中であるP&ICの範囲を広げたアウトリーチ戦略の一環とみなすことが承諾された。

次の会議

次の会議をINCAL 2007会議（2007年11月21日～23日）と合わせてインドのハイデラバードで開催することが提唱された。次週ドゥバイで開かれる会議に出席するメンバーは、インドのメンバーに対し会議への参加を促すための提案を、関係するインド政府職員と討

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

議することに同意した。タスクフォースは、インドの立場が明らかになるまで、次の会議の日程と場所の決定を延期することに同意した。

閉会

中国参加者の何名かが、中国政府機関は今では当タスクフォースの活動を支持し関与していると、他のメンバーに最新情報を告げた。ハートウェル氏が16時15分に閉会し、メンバーの参加と中国政府の会議とワークショップの主催に感謝の意を述べた。

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)

別紙 A

参加者リスト

AP6 メンバー国	機関	氏名
オーストラリア	産業観光資源省	ジョン・ハートウェル
オーストラリア	産業観光資源省	ケイティ・ローレンス
オーストラリア	オーストラリアアルミ協会	ロン・ナップ
オーストラリア	オーストラリアアルミ協会	マイケル・アイソン
オーストラリア	CSIRO (軽金属フラグシップ)	Raj Rajakumar
中国	CNIA	Pan Wenju
中国	CNIA	Wang Guongmin
中国	CNIA	Bian Gang
中国	CNIA	Wen Xianjun
中国	CNIA	Tao Zun Hua
中国	国家発展改革委員会	Yu Wei
中国	国家発展改革委員会	Gao Hairan
中国	国家発展改革委員会	Cui Cheng
中国	CHALCO	Wan Hong Yan
中国	CHALCO	Zhang Guibin
インド	--	--
日本	経済産業省	瀧川 利美
米国	商務省	デイビッド・カマロータ
米国	環境保護局	サリー・ランド
米国	国務省	バーバラ・デ・ロサ・ジョイント
米国	国務省	ナンシー・ホルト
米国	アルミ協会	スティーブ・ラーキン
米国	アルミ協会	ボブ・ストリエータ
米国	J. マークス・アソシエーツ	ジェリー・マークス

アルミニウムタスクフォース
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
2007年3月21日(中国、北京)